第４章　史跡等の本質的価値

第１節　史跡等の本質的価値の明示

１．完全な形で現存する東京湾岸最北の大型貝塚

全国には 2,400 ヵ所もの貝塚があり、東京湾岸域は全国でも有数の貝塚密集地帯です。そのなかでも、神明貝塚は最北部の大型貝塚です。

4,000 年前頃には草加市付近に海岸線があり、海岸線以北では河口や湖沼などの汽水域が存在していたと推察され、縄文時代後期前半には、千葉県野田市から埼玉県松伏町にかけて、汽水性のヤマトシジミを主体とする貝塚が形成されました。神明貝塚はそのうちの一つであり、かつ、最大級の馬蹄形貝塚です。東京湾岸北部で直径 100m を超える縄文時代後期から晩期の大型貝塚は、神明貝塚のほか、野田市内町貝塚、東金野井貝塚、野田貝塚、山崎貝塚があり、最北は内町貝塚です。しかし、内町貝塚は西側が江戸川の堤防下に埋没しており、集落全体が現存する大型貝塚としては、神明貝塚が最北です。

2．縄文時代後期前半の集落研究の示準となる遺跡

3,500 年前の縄文時代後期の中頃には、再び海面が低下し始め、汽水域は神明貝塚から 15km 南方の野田市山崎貝塚付近まで後退したものと推察されます。汽水域が離れていくとともに、神明貝塚での活動は終焉を迎えました。

山崎貝塚のように、周辺の大型貝塚は、前後の期間を含む長期間にわたり形成されたものが大半です。それらは、多時期の遺構や遺物が重複して、ある一時期だけの集落の様相を抽出することは簡単ではありません。それに対し、神明貝塚は集落の存続期間が 300 ～ 400 年間と短く、土器の型式は堀之内１式～加曽利Ｂ２式に限定されることから、東京湾岸域の縄文時代後期前半の集落の様子を端的に示す遺跡です。具体的には、同時に存在した住居の軒数や、１回あたりの貝の採取量など、人々の営みを数値化することが可能であり、縄文時代後期前半の集落の様相を知る上で、示準となりうる遺跡です。

また、縄文時代後期後半から晩期にかけての大規模な遺跡の多くは、環状盛土遺構が形成されています。しかし、神明貝塚では中央部分がやや低いものの、盛土は形成されず、環状盛土を伴う集落の前段階に位置付けられる遺跡です。

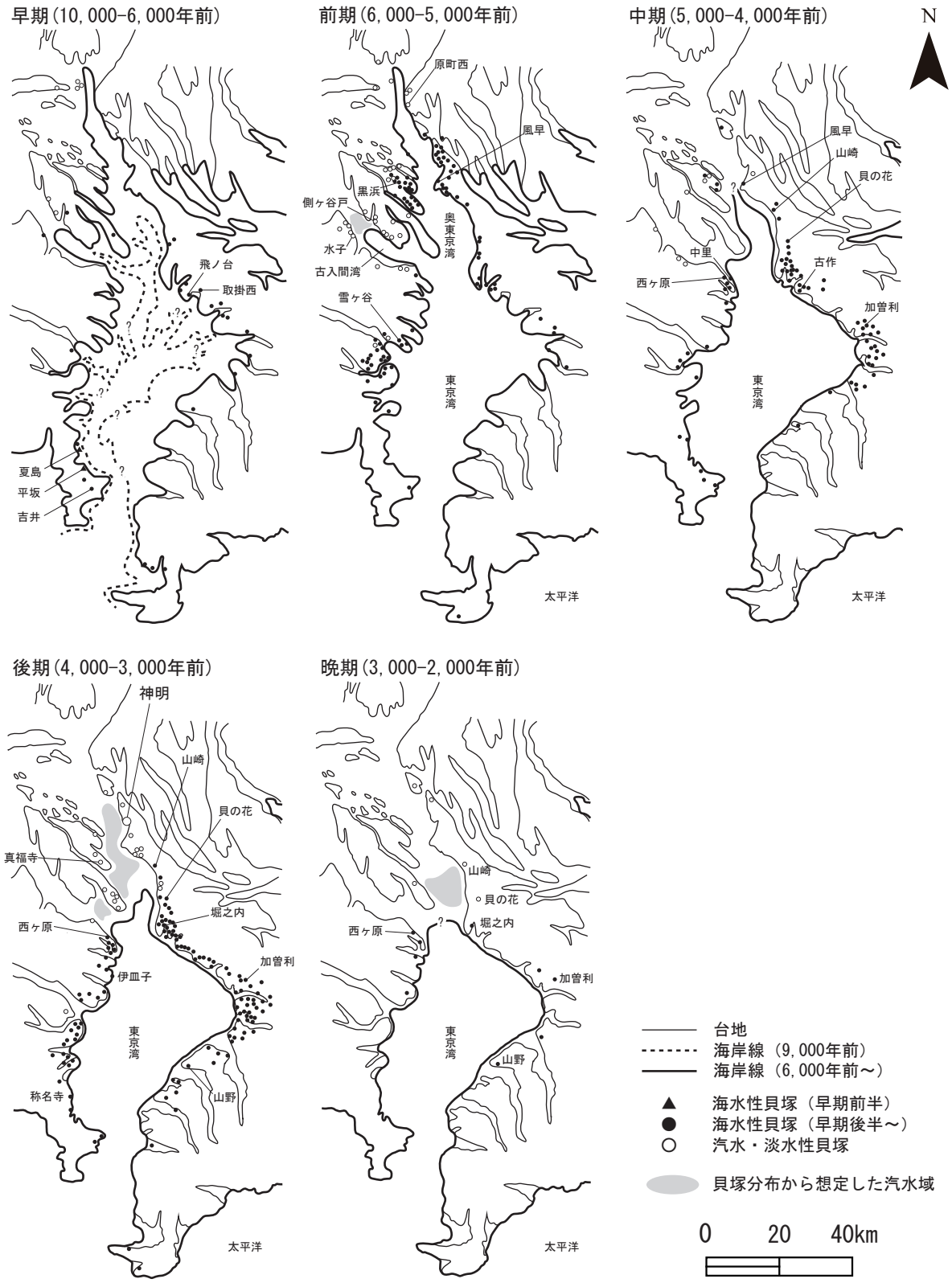

図 27　縄文時代の海岸線と遺跡分布

（樋泉 1999 を基にさいたま市立博物館 2014、埼葛地区文化財担当者会 2007、品川区立歴史館 2007、神奈川県考古学会 2009、古河市史編さん委員会 1985、財団法人千葉県史料研究財団 2004、小杉 1989 を参照して作成）

表 2　集落の存続期間

貝塚名	時期	規模
野田市内町貝塚	早～晩期	直径 200m の環状貝塚　西半分が江戸川の堤防下
春日部市神明貝塚	後期前半	南北 140、東西 160m の馬蹄形貝塚
野田市東金野井貝塚	前～後期	東西 120m、南北 150m の馬蹄形貝塚
松伏町栄光院貝塚	後期	直径 80m の馬蹄形貝塚　東端が江戸川の堤防下
野田市岩名貝塚	後～晩期	直径 50～80m の馬蹄形貝塚
松伏町本郷貝塚	前～後期	馬蹄形貝塚？詳細不明
野田市中野台貝塚	早～後期	直径 50～80m の馬蹄形貝塚
野田市山崎貝塚	中～晩期	直径 130m の馬蹄形貝塚

3. 縄文人の資源利用の多様性を示す遺跡

神明貝塚は汽水域ならではの環境を反映し、発掘された貝殻や魚骨の多くは、淡水域や汽水域に棲息するものです。また、貝殻や骨などの動物遺体のほか、炭化種実などの植物遺体も確認でき、縄文人の食生活の多様性を証明しています。

さらに、人骨や土器付着物の炭素・窒素安定同位体比分析では、縄文人が植物資源を多く摂取していたことが裏付けられました。神明貝塚は、縄文時代後期における食料資源の利用について、多くの情報をもたらす遺跡です。

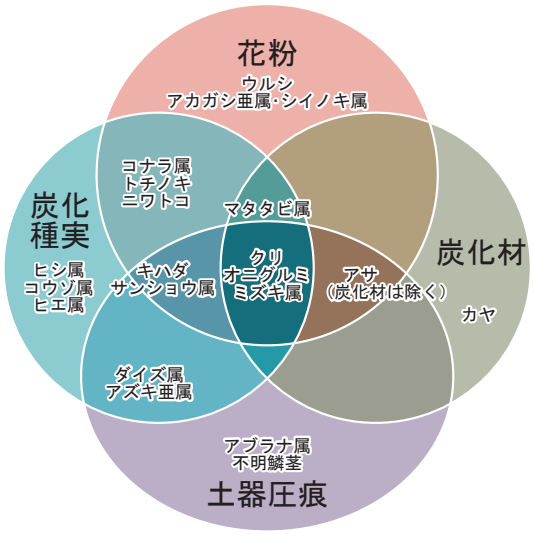

図 28　神明貝塚の植物利用

4. 東京湾岸域の貝塚の様相を現物として示す遺跡

東京湾岸域は全国でも有数の貝塚密集地帯であり、神明貝塚はその貝塚群の一翼を成すもので、関東地方の縄文時代後期前半の集落にみられる特徴が顕著です。また、大型環状集落としての普遍性を兼ね備えるとともに、当時の生活や文化についての多くの情報を持ちあわせています。

まず、縄文時代後期前半の堀之内式期から加曽利Ｂ式期にかけて、集落が外側から内側へと移行していく様相は、市原市祇園原貝塚など、現東京湾東岸を代表する後期の大型貝塚の調査で明らかにされました。この特徴が、東京湾岸域最北の神明貝塚でも追認されたことは、汽水域、海水域といった環境の違いはありつつも、貝塚の形成に一定の規範が存在することを示しています。

また、神明貝塚で確認された炉跡や焼土跡に灰が厚く堆積する状況は、さいたま市真福寺貝塚や千葉市大膳野南貝塚、市原市武士遺跡、西広貝塚、祇園原貝塚などでも確認されています。そのような集落の変遷や炉跡などの遺構の様相は、縄文時代後期前半において普遍的な現象であったと考えられます。

しかし、東京湾岸域において、神明貝塚と共通の事象をもつ遺跡の多くは、開発により喪失しています。神明貝塚は、東京湾岸域における縄文人の集落や生活の様相を、現物として示すことができる数少ない遺跡の一つです。

5. 日本列島の汽水性貝塚を代表する遺跡

縄文文化とは、農耕に依存せず、極めて長期間にわたり安定的な社会を営んだ、世界的にも特徴のある文化です。その最大の特徴は、縄文人が環境の変動に適応し、働きかけ、多くの資源を利用したことです。

東京湾岸域では、縄文時代早期前半の船橋市取掛西貝塚をはじめ、前期前半には古河市原町西貝塚、後期前半には神明貝塚とその周辺、晩期では山崎貝塚などで汽水性貝塚が形成されました。このような汽水性貝塚の分布は、縄文時代の海進、海退に伴う汽水域の北上と南下を示すとともに、その変動に縄文人が見事に適応した証でもあります。

また、汽水域は淡水域と海水域の中間的な環境であり、内陸地と海浜部を結ぶ位置にあります。神明貝塚では陸性、海水性、汽水性、淡水性の多様な食料資源を利用していたことが明らかになっています。加えて、糸魚川産のヒスイの玉や関東地方近縁の石材を用いた石器、外洋に生息する貝で作られた腕輪などが発掘されるなど、陸と海の双方から人々の交流がありました。

しかし、国の史跡に指定された汽水性貝塚は20ヵ所にも満たず、神明貝塚のように縄文人の資源利用の多様性が明らかとなった貝塚は、ほかにありません。環境変動への適応と多様な資源利用という人類史上重要な現象を伝える、汽水性貝塚の代表として、神明貝塚を守り、活用していく必要があります。

図 29　縄文時代後晩期の貝塚

（地図は国土地理院色別標高図、土地条件図、国土交通省土地分類図、袖ケ浦市 2016 を基に作成。 遺跡分布は袖ケ浦市 2016、さいたま市立博物館 2014、2006、春日部市史編さん委員会 2012、品川区立品川歴史館 2007、横浜市歴史博物館 2016、神奈川県考古学会 2009、上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2015、2000 を参照。）

第２節　構成要素

神明貝塚は国の史跡であり、国の内外に誇るべき貴重な宝です。また、地域住民によって、先祖より伝えられ、守られてきた田畑であり、この春日部の地に特有の地形、気候、風土、人間の活動により育まれた歴史の賜物です。

つまり、神明貝塚は、貝塚単体で構成されるものではなく、様々な要素の有機的な結合体です。したがって、神明貝塚を適切に保存し、効果的に活用していくためには、その要素を特定し、整理する必要があります。

本計画では神明貝塚の構成要素について、以下のように区分します。

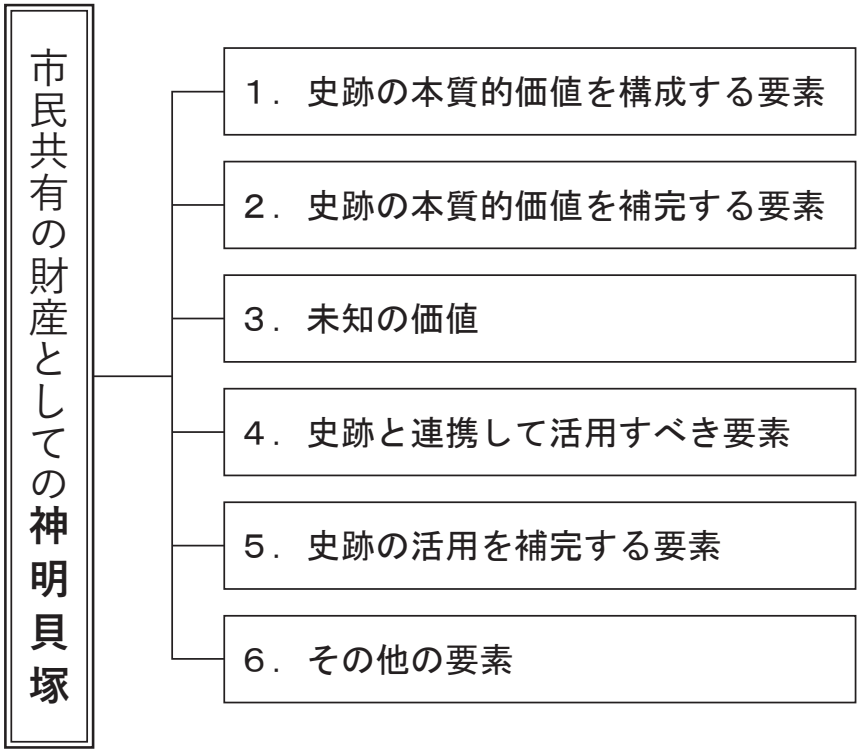

図 30　構成要素の区分

1. 史跡の本質的価値を構成する要素

史跡の本質的価値に直結する遺構や遺物、地形や空間などで、恒久的に確実に保存すべきものです。第 3 章及び第 4 章第 1 節に記載した、縄文時代の貝層や住居跡、墓、焼土跡などの遺構、土器や石器、骨、炭化物などの遺物のほか、神明貝塚特有の平坦な地形や自然環境などが該当します。

2. 史跡の本質的価値を補完する要素

史跡の本質的価値を補完するものです。縄文時代以外の遺構や遺物、浅間下遺跡や貝の内遺跡などの近隣の遺跡が該当します。

3. 未知の価値

史跡の本質的価値を構成しうる未知の遺構などです。将来的な調査予定範囲である東の谷に包蔵が想定される、縄文時代の水場遺構や植物質遺物、地質学的資料などが該当します。

4. 史跡と一体で活用すべき要素

神明貝塚をはじめとする文化遺産を生み出した市の歴史、文化、地形、風土です。第 2 章第 6 節に記載した指定等文化財や、遺跡、歴史的建造物や文化的景観、河川の歴史、水田などの土地利用、風習、伝承などが該当します。

5. 史跡の活用を補完する要素

史跡の活用を補完するインフラなどです。郷土資料館などの公共施設、観光資源、公共交通などが該当します。

写真 35　神明貝塚特有の平坦な地形

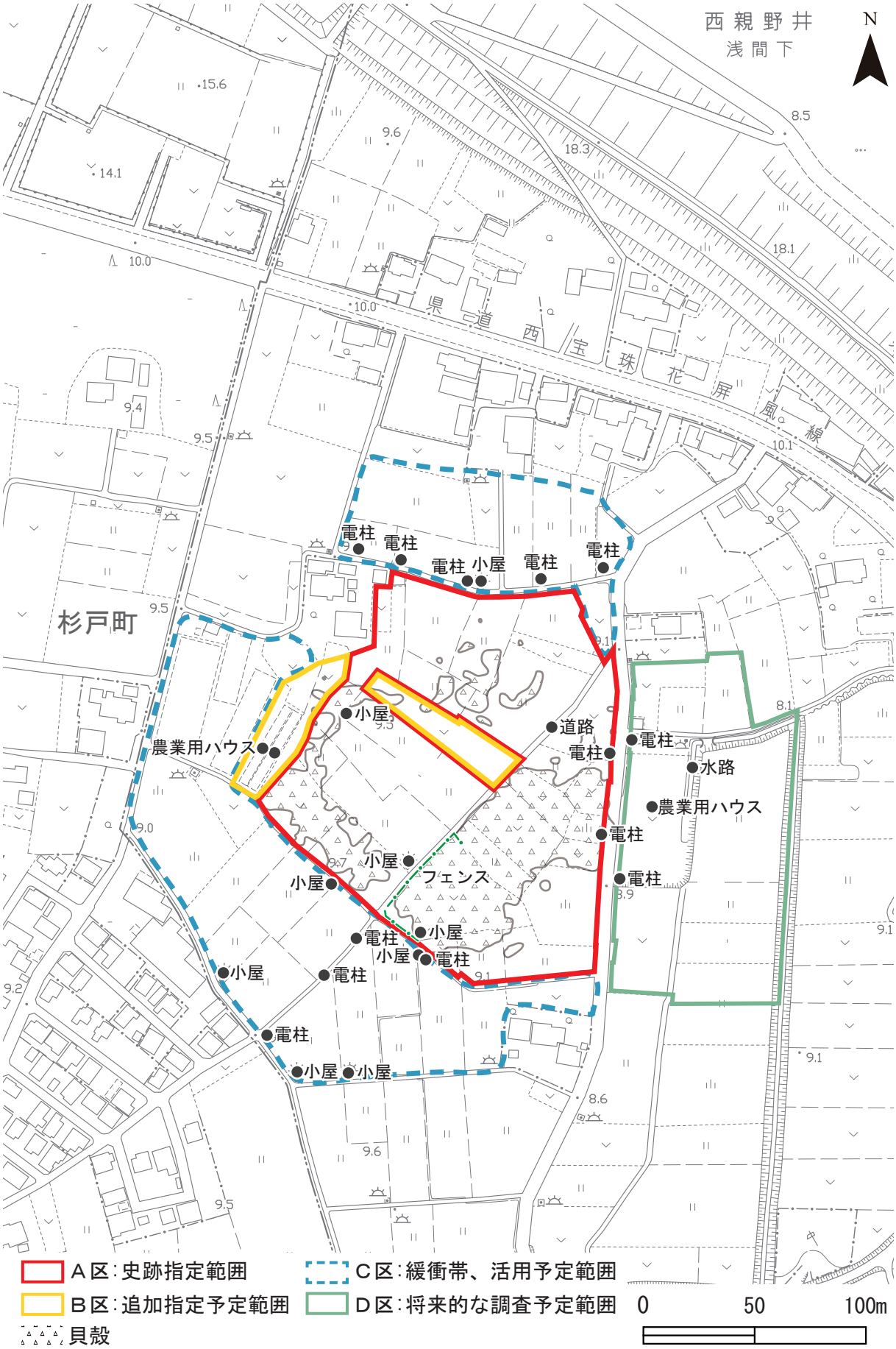

図 31　史跡周辺の構成要素の分布

6. その他の要素

史跡の本質的価値に関係しない構造物や建築物、工作物、樹木などで、史跡の保存管理、活用、整備に際し、移転、除却、修景などの検討が必要なものです。現代の道路、住宅、電柱、井戸、農業用ハウス、用排水路、農地改良に伴う盛土、フェンス、樹木、ソーラーパネルなどが該当します。

史跡と一体で活用すべき要素

写真 36　江戸川

写真 37　屋敷林

写真 38　農地

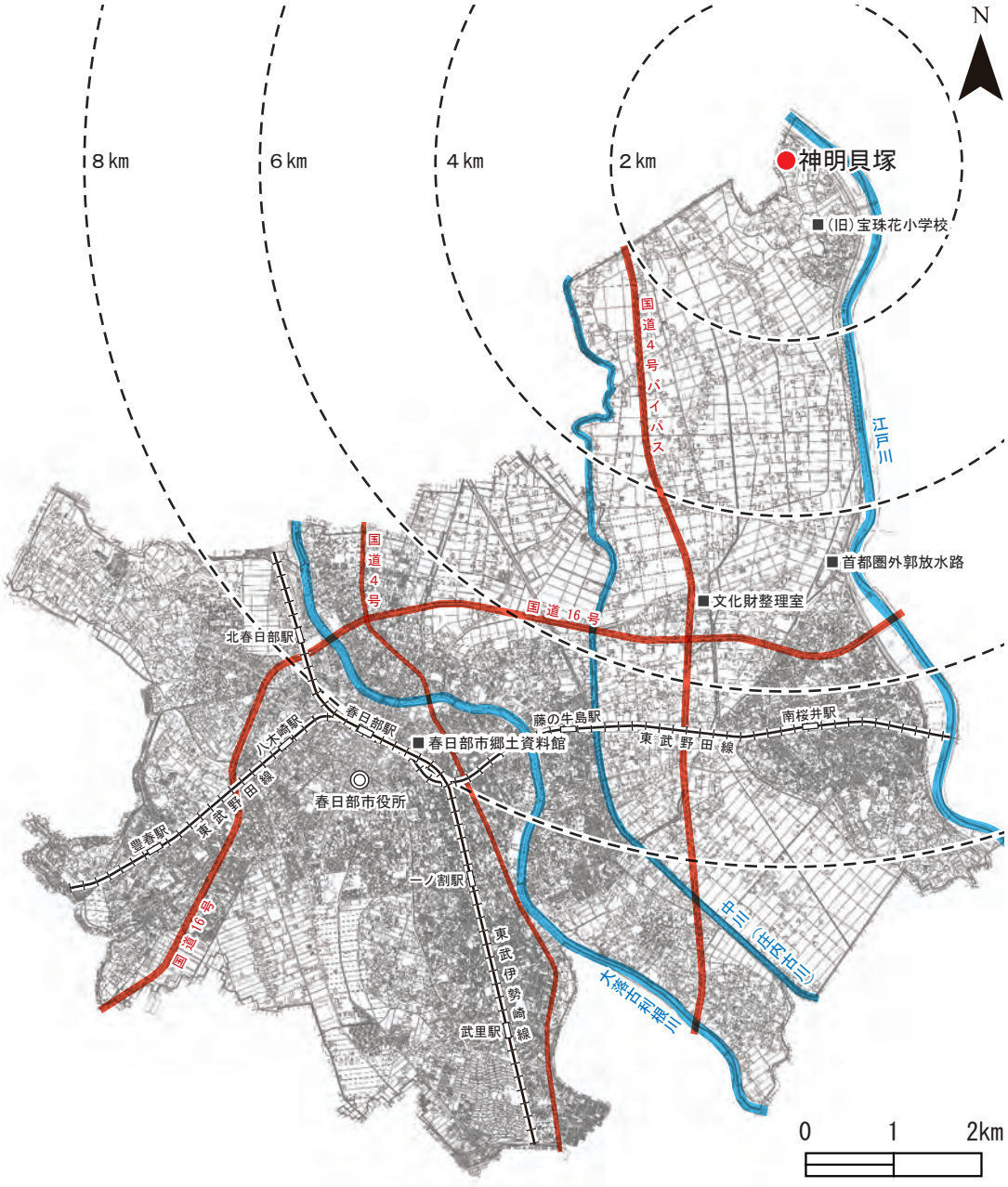

図 32　史跡の活用を補完する要素の分布

史跡の活用を補完する要素

写真 39　郷土資料館

写真 40　首都圏外郭放水路
（国土交通省提供）

その他の要素

写真 41　道路

写真 42　フェンス

写真 43　電柱

写真 44　農業用ハウス

その他の要素

写真 45　井戸（ポンプ小屋）

写真 46　井戸（送水管）

写真 47　盛土

写真 48　排水路